

氏 名	渡 邊 聖 子
授 与 し た 学 位	博 士
専 攻 分 野 の 名 称	医 学
学 位 授 与 番 号	博甲第 2994 号
学 位 授 与 の 日 付	平成 17 年 6 月 30 日
学 位 授 与 の 要 件	医学研究科内科系小児神経学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学 位 論 文 題 目	The Rey-Osterrieth Complex Figure as a Measure of Executive Function in Childhood (小児期実行機能評価法としての Rey 複雑図形)
論 文 審 査 委 員	教授 森島恒雄 教授 黒田重利 助教授 堤 明純

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

Rey-Osterrieth Complex Figure (ROCF) の描画には、実行機能が関与するといわれている。この研究では小児の ROCF の成績への実行機能の関与を検討した。IQ70 以上の種々の神経疾患児 56 人を対象とし、各種実行機能検査と ROCF を施行した。ROCF は Boston Qualitative Scoring System (BQSS) を用いて評価した。年齢を制御変数とし、BQSS Summary Score と実行機能検査との偏相関係数を算出した。WCST の Categories Achieved、Perseverative Errors of Nelson、および Mazes、Digit Span、Block Design の粗点は BQSS Summary Score と有意な偏相関を示した。逆に Trail Making Test、Stroop Test、Continuous Performance Test の Commission との間には相関が認められなかった。以上より、小児においても ROCF の成績には視覚認知や視覚構成力に加え、計画性や統合性などの実行機能が反映されることが示された。さらに、小児期の高次脳機能障害の臨床に BQSS を応用していく可能性も示唆された。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は小児における Rey-Osterrieth Complex Figure (ROCF) の描画が、実行機能の解析に有用かどうかを検討したものである。対象は IQ70 以上の種々の神経疾患児であり、ROCF は Boston Qualitative Scoring System (BQSS) を用いて評価した。

結果は、現在用いられている数種類の評価方法と比較して、小児の ROCF の成績には、視覚認知や視覚構成力に加え、計画性や統合性などの実行機能の一部が反映されることを示す興味深いものであった。今後、正常児コントロール群の成績を示し、また IQ の高い（例として 90 以上）症例のデータの集積や、ADHD など対象疾患を限定した成績などの実用化に向けた検討が必要であるが、小児期の高次脳機能障害の評価に BQSS が応用できる可能性を示した点が高く評価される。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。